



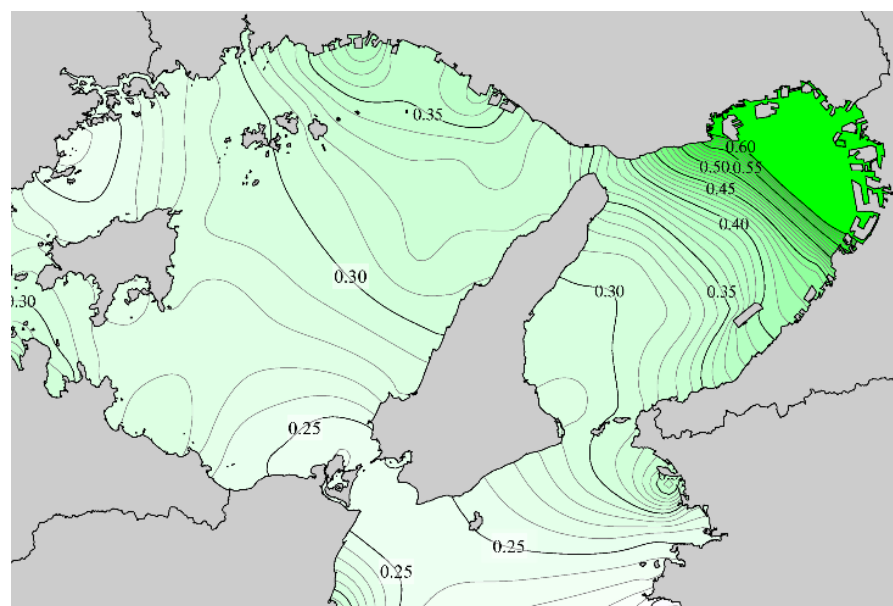
1 計画策定の背景

- 「瀕死の海」と呼ばれた瀬戸内海は、厳しい排水規制のもと、大きく水質が改善
その反面、一部の海域で栄養塩類（全窒素及び全りん）の不足等によるのりの色落ち等が課題
- 2021年6月、瀬戸内海環境保全特別措置法が改正され、瀬戸内海への栄養塩類供給方法を
定めた栄養塩類管理計画の策定が可能に



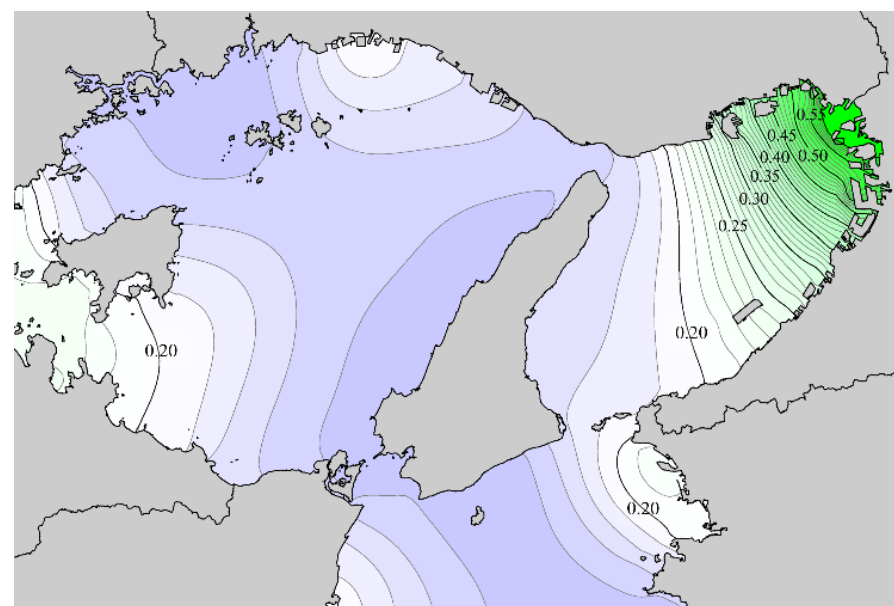
色落ちしたノリ（右）

- 本日、他府県に先駆け「兵庫県栄養塩類管理計画」策定

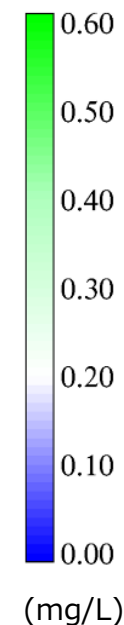


全窒素：1999年度（年度平均，表層）

窒素濃度
低下



全窒素：2019年度（年度平均，表層）



(mg/L)

兵庫県栄養塩類管理計画の策定について



2 計画の概要 (令和4年10月21日策定)

- (1) 対象海域 大阪湾西部、播磨灘
- (2) 対象物質 全窒素、全りん
- (3) 水質の目標値 望ましい栄養塩類濃度 (県条例下限値～環境基準値)

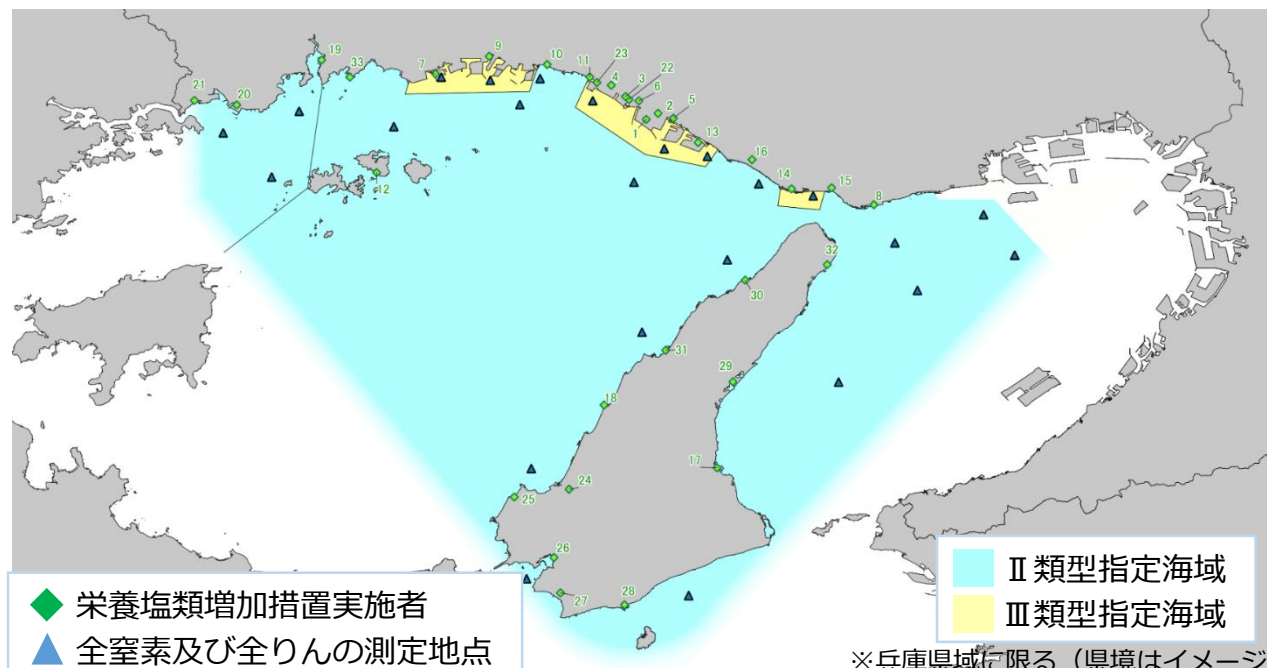
水域 類型	全窒素(mg/L)		全りん(mg/L)	
	条例下限値	環境基準値	条例下限値	環境基準値
Ⅱ	0.2	0.3	0.02	0.03
Ⅲ	0.2	0.6	0.02	0.05

- (4) 実施者・実施方法
 - 民間工場 5箇所※ 生産工程の一部変更、排水処理方法の変更
 - 下水処理場 28箇所 季節別運転

※ 民間工場は、計画への位置づけにより、本格的な窒素供給増加の取組を開始

- (5) 水質の状況 対象海域内 (24地点) で月1回モニタリングし、水質の目標値の達成状況を毎年評価

- (6) 計画の管理 環境審議会などに水質の状況を定期的に報告し、必要に応じて計画を見直す



【問い合わせ先】環境部水大気課 TEL 078-362-3290